

健診だより VOL. 7

女性に優しい健診を

めざしています



スタッフは子供が大好きな女性ばかり。全員でサポートいたしますので、小さなお子様連れの方でも、安心して受診していただけます。

なかなか健診を受ける機会のない主婦の方の健康を大切に考えています。

↓お勧めの健診はこちら↓

- ◆お手軽健診 ￥8,400
平日 13:30~ (予約制です)
 - ◆レディースドック ￥10,500
月・水・金曜日 13:30~ (予約制です)
 - ▼乳がん検診
乳腺触診・マンモグラフィ
 - ▼子宮がん検診
内診・子宮頸部の細胞診
★HPV検査の追加もできます
- 身体測定 血圧測定 尿検査
心電図 胸部のレントゲン
血液検査 視力・聴力検査

★当センターはマンモグラフィ健診施設として認定されています。マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医の診断と認定女性技師による撮影を実施しております。

◆新任のご挨拶



主任：東丸

師長：荒牧

副主任：石井

看護部の新三役です。
全員でがんばります♡

◆センターからのお知らせ

- * 人間ドック 月・火・木の実施日
- * センター健診 (市の情報誌をご覧ください)
- * 健康教室 第2金曜日 (予約不要・無料です)

健診に関するお問合せ・予約は下記までご連絡下さい。
健診センター ☎0940-37-0007

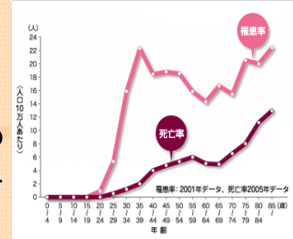
ご存知ですか？

ヒトパピローマウイルスと子宮頸がんについて

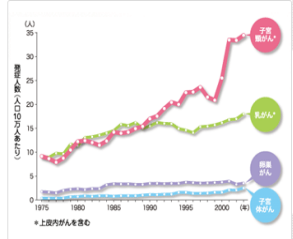
子宮頸がんの発症には発がん性のヒトパピローマウイルス(HPV)が深くかかわっています。HPVは性行為により子宮頸部に感染し、性交経験のある女性の80%は発がん性HPVに一度は感染します。多くの場合、HPV感染は一過性で自然に排除されますが、一部の人は子宮頸部に持続感染します。持続感染した方の一部が、前がん病変から上皮内がん、浸潤がんへと進行します。

そこでHPVの持続感染を予防するためのHPVワクチンが開発されました。子宮頸がんが発症する発がん性HPVは15種類ほどありますが、その中でも多いのは16型と18型で、欧米では70%、日本では50-60%が16型と18型が子宮頸がんの原因になると言われています。日本でも16型と18型のHPVワクチンが認可され接種できるようになりました。このワクチンは、すでに16型と18型のHPVに感染している女性には効果がありません。対象は、これらのウイルスに感染していない女性で、原則的には性行為を経験していない10代前半の女児とされています。欧米ではこのワクチン接種により子宮頸がんの発症を70%減少させることができると期待されていますが、このワクチンで予防できるのは16型と18型のHPVによる子宮頸がんだけで、その他の型のHPVには効果がありません。

HPVワクチンを接種しても1年から2年毎の子宮がん検診が必要であることは変わりありません。HPV感染から子宮頸がんになるまで数年の時間が必要です。ワクチンを接種していなくても1年から2年毎の子宮がん検診で前がん状態あるいは初期がんを発見し小さな手術で治療することができます。子宮がん検診を受けていない方は、是非、がん検診を受けられることをお勧めいたします。



図：子宮頸がんの罹患率と死亡率 (日本人女性)
国立がんセンターがん対策情報センター



図：日本における20~39歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率推移
国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計
(厚生労働大臣官報統計情報部)

人には聞けない

でも心配・・・

そんな悩みを解消! 口臭検査やっています

◆口臭検査 ￥1000
平日 14:00~(予約制です)

- ・口腔内の衛生状態
 - ・歯周病の有無
 - ・内臓疾患の有無
- などが目に見える数値でわかります!
検査時間は5分程度お手軽な検査です。
気になる方は一度やってみませんか?

◆編集後記

日本では二人に一人ががんになり、年間約34万人ががんで亡くなっています。アメリカでは、がんによる死亡者が減っているのに日本では増えているその理由は、がん検診の受診率の低さにあるといわれています。近年、20-30代の若い年代の女性に子宮頸がんが増えています。子宮頸がんの検診受診率は、アメリカで85.9%であるのに対し、日本は24.5%とかなり低いのが現状です。子宮頸がん検診は、がんになる前段階で発見できるメリットがあります。これは他の検診にはないメリットです。がんになる前段階とがんになってからは治療法が大きく変わってきます。体の負担も経済的負担も格段に増えます。子宮頸がんは、予防できる唯一のがんであり、感染を防ぐワクチンが開発され、日本では中学一年生から高校一年生の子をを対象に、2010年から公費助成によるワクチン接種が行われています。しかし、本文中にも述べましたように、それだけでがんを防げるわけではありません。ワクチンを接種した女子でも20歳になったら定期検診を受けることが大切です。

◆健康教室より



健診センターでは、毎月テーマを決め、医師らによる教室を開催しています。5月は胃がん・大腸がんについて医師会病院の増成先生がお話されました。

『がんの部位別死亡率において、胃がんは男性2位、女性3位。大腸がんは男性3位、女性は1位となっています。』

胃がん・大腸がんのいずれも、早期の段階で発見すれば腹腔鏡補助下の切除手術や、内視鏡的切除術など負担の少ない治療方法が選択可能な場合があります。早期がんは無症状であることが多く、進行がんでも症状があるのは50%程度です。定期的な検診で早期段階でがんを発見することが重要です。』

次回のご案内：6月14日(金) 動脈硬化のはなし
《時間/場所》健康教室 14:00~15:00/3階講堂
健康相談 15:00~16:00/2階健診センター



センター長 江島 準一